

2022年5月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 5月えんだより

5月の聖句「子どもたちを わたしのところに来させなさい。」

マルコによる福音書 10章 13節～16節

「ドキドキ」「ワクワク」の入園、進級から早やひと月が過ぎました。この春は、比較的良い天気が続いたこともあり、ゆっくりと外での遊びを楽しみつつ過ごすことができました。そのようなこともあってか、新入園児の赤ちゃんたちの泣き声もいつもの年より少なく、ゆったりとした流れの中で子どもたちも新しい生活に馴染みつつあるように思います。

「エンジェルスマイル」という言葉を聞かれたことがあるかと思います。生まれたばかりで何も見えない、何も聞こえないであろう赤ちゃんが、眠りながらにっこりと微笑みます。まさしく「天使のほほえみ」。これは、生後1～3ヶ月くらいの赤ちゃんに見られるもので「生理的微笑」などとも言われるそうです。このほほえみは、周りからあやされてとか微笑みかけられて、また、くすぐられてといったようなことに反応して感情を表しているのではなく、生理的に筋肉が動いている現象だそうです。なぜこのような現象が起こるのか医学的には解明されていないようですが、自分の力で生きることができない赤ちゃんが親に育ててもらうため、そして自分を守るための防衛本能の一つともいわれ、人に近いサルの子供にも見られるそうです。春になると、マスコミでも様々な動物の赤ちゃんが紹介され、多くの人々がその姿に癒され、心が優しくなるように感じます。この「エンジェルスマイル」や赤ちゃんの何とも言えない可愛さ。これらは、生まれてすぐには自分の力で生きていくことができない「赤ちゃん」への神様からの贈り物ではないかと思います。そして、この神様からの贈り物によって与えられる癒しや優しくなる感情は、老若男女関係なく受け取り、赤ちゃんを助け、守ります。

聖書には「子どもたちをわたしのところに来させなさい。」の御言葉に続き、「子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」とあります。「神の国」、「神の愛」を受け入れる子どもたちが「神の愛」に触れること、与えられることをイエス様は望まれたのです。

私たちは生まれてすぐ、まだ目が見えず、耳が聞こえないときに神様から「エンジェルスマイル」という生きていくための力をいただきました。そして、この「エンジェルスマイル」という神様からの愛の贈り物は、多くの人々を癒し、優しくする「神の愛」です。

目が見え、耳が聞こえるようになった今、そしてこれからも、「エンジェルスマイル」を受け取ったように「神の愛」をしっかりと受け取る歩みを続けたいと思います。

5月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	なんだろう	感じる
月の願い	*神さまの守りの中で、「あれ?」「なにかなあ」と周りの様子に目を向けながら、好きなあそびを見つけて過ごしてほしいと思います。	*友だちや保育者と一緒に安心して過ごし様々なものに目を向け、「おもしろいな」「たのしいな」と感じて過ごしてほしいと思います。
讃美歌	「ことりたちは」 こども改 10	「このはなのように」 こども改 115